

呼吸器内科

診療科のご紹介

呼吸器内科では日常の長引く咳から、肺がんなどの呼吸器悪性疾患，気管支炎・肺炎，肺結核などの呼吸器感染症，気管支喘息，肺気腫などの慢性閉塞性肺疾患，間質性肺炎などのさまざまな呼吸器疾患が対象です。全身疾患と関係の深い疾患も多く、各科と協力しながら診療を行っています。

呼吸器内科が対象とする症状

長引く咳（せき）、たん、喘息（ぜんそく）

息切れ

呼吸困難

発熱（特に呼吸器疾患が疑われる場合）

血痰、喀血

胸痛

胸部レントゲンなどの異常 など

呼吸器内科が対象とする疾患

① 呼吸器悪性疾患

肺がんなどの呼吸器悪性疾患は，現在多くの病院では呼吸器内科において最も患者さんが多い疾患です。呼吸器外科や放射線科，腫瘍内科，病理診断科とも密な連携を取り診療を行います。呼吸器内科で主に担当する薬物療法は、昨今分子標的薬による治療も重要です。基本的に学会の治療ガイドラインを遵守しながらも個々の状況に合わせたテーラーメイドな治療も工夫し、緩和医療にも留意した診療を行います。

手術は当院呼吸器外科で行います。できるだけ地域で診断から治療、そして緩和医療まで完結できるよう努力して参ります。

検診異常での精査や、かかりつけの先生からのご紹介での外来受診をお願いします。また、かかりつけの先生への逆紹介もお願いしています。

② 呼吸器非悪性疾患

肺炎、気管支炎、肺結核や非結核性抗酸菌症などの感染症、慢性咳嗽、気管支喘息、肺気腫などの閉塞性肺疾患、間質性肺炎、サルコイドーシス、塵肺などが挙げられます。病状が重篤な場合は入院治療も必要です。感染症は院内 ICT(感染対策チーム)と協力し適切な診療を心がけています。

肺結核は外来診療可能であれば外来で標準治療を行いますが、入院を要する場合は専門病棟を有する施設へご紹介します。

気管支鏡検査

呼吸器疾患の診断治療に不可欠な気管支鏡検査は呼吸器外科とも協力して検査を行っています。現在は1泊2日の入院です。クリニカルパスを用いて安全で短期間での入院検査を目指しています。